

## Contents

- 松山大学高島亀太郎関連資料について…… P2
- 資料検索<経済学系編> …………… P4
- 私が薦めるこの一冊 …………… P6
- 新稀観書紹介<その2> …………… P7
- 統計データで見る松山大学図書館 …………… P8



## 松山大学高島亀太郎関係資料について

### 『高島亀太郎文庫』紹介

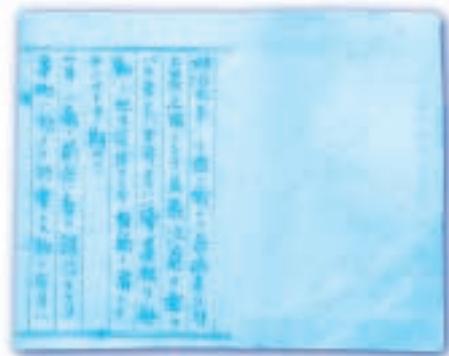
本文庫は、1994年(平成6)12月、明治・大正・昭和の三代にわたって、宇和島地方を中心に活躍した、実業家で目つ政治家の高島亀太郎(たかばたけ かめたろう、1883年～1972年)氏が所蔵していた大変貴重な資料を、孫夫婦(高島重章・澄江御夫妻)のご好意により、松山大学図書館が寄託を受け、整理したものです。

亀太郎は大変几帳面な性格であったため、生涯にわたり、自分が関わり、受け取った資料類や手紙をほとんど捨てることなく、大切に保存していました。また、自分の資料だけでなく、父の和三郎、祖父の英三、また、妻や兄弟(華宵等)、そして子供たちの資料も大切に保存・保管していました。寄託を受けた亀太郎所蔵の資料類は、ダンボール箱で110箱余り、大変膨大な量でした。

松山大学では、これらの資料を利用できやすいように、項目別に分類・整理し、1996年3月に『高島亀太郎文庫資料目録』として刊行しています。それらは次の如くです。

1. 伊助・英三・和三郎関係資料	1,187点
2. 製糸業関係資料	1,536点
3. その他の営業関係資料	1,516点
4. 商工会関係資料(実業青年会、商工会、商工会議所など)	102点
5. 政治関係資料(町会、市会、県会、衆議院など)	912点
6. 書簡類	16,183点
7. 日記・手帳類	101点
8. 著書・原稿類	1,618点
9. 趣味・教養類	2,514点
10. 高島家の家族関係資料	3,267点
11. 郷土資料(愛媛県、宇和島市)	361点
12. その他一般資料	662点
合計	29,959点

これらの資料類はどれも貴重ですが、なかでも、亀太郎が書き記した日記と製糸業関係の帳簿類が第一級の歴史的価値のある資料と言えます。



▲明治30年(亀太郎13歳)



▲明治32年(亀太郎15歳)



◀明治40年(亀太郎23歳)

日記は、亀太郎が13歳の年の明治30年(1897)1月から書き始められ、途中で抜けている年もありますが、89歳で亡くなる昭和47年(1972)の7月まで毎日のように書き記されていました(全部で76年間、但し、散逸のため現存は56年間)。実に膨大な分量です。政治家の日記としては、前人未踏でないかと思われます。また、その中身がすぐれています。亀太郎は宇和島の町会議員を振出しに宇和島市長・衆議院議員にまで上り詰めた人物です。我々が一番知りたい市政・県政・国政の裏側のことについて、特に、選挙の状況とか、議長選挙、市長選挙等にかんして、生々しい記述が含まれていました。また、日記は淡々と客観的に書かれており、それ自体が歴史の記録ともなっていました。

製糸業関係の資料も大変貴重です。愛媛県は戦前西日本で有数の養蚕・製糸業県であり、なかでも、宇和島地方は県下でトップの製糸業地帯でした。明治10年代以降、愛媛の宇和島で製糸業が勃興し始めますが、高島製糸はやや遅れ

て、大正4年(1915)に100釜の器械製糸として設立され、以後、堅実に発展。昭和恐慌による打撃もありましたが、最新の機械を導入し、新しい工場も建て、乗り切り、宇和島でトップクラス、県内でも有数の製糸家になっています。これまで、県内の製糸関係の資料はほとんどなく、研究もなされていませんので、この高島製糸の資料により、その具体的状況がわかります。

その他、亀太郎宛の書簡類も貴重です。彼は大変人情が厚く、そして交遊関係が極めて広いため、多くの人達から手紙・葉書が来ています。商売関係を含め、その数は1万6,183通にもものぼります。大変膨大な数です。著名な人物からの書簡もあります。また、江戸期や明治期の小学校の教科書類、亀太郎が早稲田大学の通信教育を受けたときの教科書類も残っており、大変貴重な資料と言えます。

## 『高島亀太郎日記』第1巻,第2巻紹介

高島亀太郎が書き残した日記は、大変歴史的価値のある資料だとして、松山大学や愛媛大学の教員と高島華宵大正ロマン館の人達が「高島亀太郎日記研究会」を作り、研究を行い、その日記の一部が、『高島亀太郎日記-明治30年~38年-』(松山大学総合研究所所報第25号)、『高島亀太郎日記-明治39年~45年-』(同、27号)として、1998年、1999年に松山大学総合研究所から刊行されています。

日記は、原文に忠実に復刻されています。そして、各巻のそれぞれには、解説と年表、家系図が付けられ、また、日記に登場する人物や事項について脚注がなされ、大変読みやすくなっています。1巻、2巻は亀太郎が10代、20代の青年時代の時期です。読みますと、亀太郎の凄ましい努力と勉強ぶり、友人との交遊関係、明治青年の気概を読み取ることができます。

また、日記全体を通じ、家業の生糸商や製糸業の動向、政争激しい宇和島政界の状況、また、県議会議員や衆議院議員候補選出を巡る政界の裏話など、大変興味ぶかい記事が記されています。また、亀太郎はクリスチャンであり、宇和島での教会活動の状況も日記から分かります。さらにまた、かれは、俳句もよくしており、宇和島での俳句活動の一端も伺うことができます。



つまり、亀太郎の記した日記は、宇和島が中心ですが、当時の政治・経済・社会・文化のあらゆることが書かれており、貴重な歴史の記録となっています。そして、日記に見る亀太郎の生涯は、地方における一庶民の懸命な努力と生きざま、立身出世のひとつの物語をみるようです。

## 資料検索<経済学系編>

経済学部助教授 安田 俊一

### 0.はじめに

別に最近に限ったことではありませんが、「このことはどうやって調べるのですか?」という趣旨の質問をよく受けます。「そんなこと自分で考えろ!」と怒鳴りたくもなる時がありますが、いつもいつも怒ってばかりもいられません。大学にいる以上、何かのレポートを書かないわけにはいきませんし、データや何かを調べる必要もあるでしょう。

この際、基本の「き」から「なにかを調べる」という方法を紹介しておくことにしましょう。一応経済系のことからについてのみ述べさせていただきますが、基本の形はどの学問分野でも変わりません。

### 1.文献を調べる

自分が調べているテーマに関する文献を探すには、とにかくそのテーマに関係ありそうな本を1冊探してきて、その本に書いてある「参考文献」から探すのがもっとも手っ取り早い方法です。この方法を知っている学生は意外に少なく、せっかく本を1冊持っていないながら「他の資料がない」といって調べるのをやめる人が多いものです。

ある本に出ている「参考文献」を見つけたら再びその本の「参考文献」にあげてある本を探します。このようにして文献をたどっていくと2-3回もやれば結構な量の文献が出てきます。いくつかの本の中で共通してあげてある参考文献はその分野での代表的な文献と考えてよいので、それを中心に読んでいくようにすれば勉強もきっと効率的でしょう。この方法は基本の「き」にあたるもので、とくにそのテーマを調べ始めるときはだれでもこの方法を使っています(きっと僕だけではないはず)。

この方法ではだんだん古い文献を探していくことになりまますので最初の1冊目はなるべく新しい方がよろしい。そこで、最新の文献を探すことが必要になります。これには積極的にインターネットを使うようにすればよいでしょう。君が調べようとしていることはたいてい世の中の誰かがすでに調べています。そこで、Yahooやgooなどの検索エンジンを使って、「キーワード」で検索します。あるいは「紀伊国屋」「大学生協書籍部」などの書店のページから検索してもよいでしょう。そこであげられている文献のうち、なるべく新しいものを手に入れてその「参考文献」からはじめればよいわけです。

### 2.データを調べる

経済学の勉強をしていると、実際の経済データを集める必要が出てくる場合があります。これを探すのに手間取る人が結構多い。そこでひとつよい本を紹介しましょう。

「統計ガイドブック」第2版  
木下滋ほか編 大月書店 1998年



この本には日本にはどのような統計があって、それらはどこに出しており、何という本にデータが出ている、という情報とそれらについての見方がかかれてあります。調べたいことがらをまず索引で引き、ページを開ければ説明があります。関係ある統計が「統計名」「報告書名」などの一覧で出ていますので、その名前を控えて、図書館の蔵書検索システム(OPAC)で探してみます。大学にはいってればそこで引っぱりかかります。

統計書に出ている数値をそのまま使う場合はごくまれでしょう。普通はExcelなりLotusなりの表計算ソフトに入力してグラフにしたり、必要な統計処理を施します。それらの作業が必要な場合、紙に書かれた統計表から自分の手で入力するのは間違いのもとです。

松山大学では日本の統計情報に関する限りほとんどのデータが入っている「日経NEEDS」データベースを購入しています。このデータベースは大きく「日本経済マクロデータ」「株式会社決算データ(上場企業のみ)」に分かれています。「マクロデータ」にはほとんどの時系列データ、「決算データ」には上場会社の有価証券報告書がそのままデータベース化されています。このデータベースは「XCAMPUS」というデータベース・分析ソフトウェアを使ってアクセスできます。

XCAMPUSはデータベースソフトなので、必要とするデータを入手するにはそれなりのプログラムを書かねばなりません。詳細は「経済・経営・会計系のグラフィックシステム」  
斎藤清 晃洋書房 1995年



をみるか、

<http://xcsv.kobeuc.ac.jp/xcampus/default.htm>

を参照してください。来年度までにインターネットのホームページブラウザから利用するバージョンを導入する予定です。

「もっと安直な方法はないの?」という人は政府系のホームページをたぐってみましょう。日本の統計情報を探す起点は「総務庁統計局」ホームページ

<http://www.stat.go.jp>

です。このページの「統計データ」というリンクから各種統計を Excel 形式でダウンロードすることができます。

また、「日本銀行」のホームページ

<http://www.boj.or.jp>

には「ダウンロード」というリンクがあって、ダウンロードページからは「論文」「時系列データ」などがダウンロードできます。時系列データとしては「マネーサプライ」「各種貸出金利」などの統計が提供されており、最新のデータに更新され続けていますので、最新情報が知りたい、という人には日経 NEEDS よりも役に立つでしょう。ただし、データはすべて「テキスト形式」になっているので、Excelなんかを読み込ませようとするときには注意が必要です。

アメリカのデータはホワイトハウスから入手できます。

<http://www.whitehouse.gov/>

ホワイトハウスのメインページから

「The Briefing Room」→

「Economic Statistics Briefing Room」をたどると、

「Production, Sales, Orders and Inventories」

「Output」

「Income, Expenditures, and Wealth」などと分野別に分かれていますので、目的の分野をクリックします。ただし、これもテキスト情報なので利用するにはちょっとした苦労があるでしょう。

このほか海外の統計情報は、

「国連(<http://www.un.org/>)」

「EU (<http://europa.eu.int/>)」

「OECD (<http://www.oecd.org/>)」

といった諸機関のページからたどることができます。あたりまえのことですが、これらのページはすべて英語です。

### 3. 雑誌論文を調べる

勉強を進めていくと、「本」という形以外で「論文」を参照しなければならない場合が結構出てくるものです。雑誌名とタイトルがわかっている場合は雑誌名で検索すれば大学にあるかどうかは調べられます。また、大学にない場合でもカウンターで申請すればその雑誌を所有している他の大学の図書館からコピーをもらう(有料)こともできます。

明確な雑誌名やタイトルがわかっているわけではなく、キーワードで雑誌論文を探すためにはちょっとした手続きが必要です。日本語文献の場合には「学術情報センター」にアクセスして検索するのですが、学生は自分ではアクセスできません。そのような場合には図書館のカウンターで相談してください。

英文文献を探す必要があれば(そういう必要があるのは教員と院生だけですが)、「EconLit」というCD-ROMで検索できます。これは雑誌「Economic Literature」をCD-ROMにしたようなもので図書館のカウンターで依頼すれば図書館内の検索用PCで使うことができます。これはよくできていて、著者名、発行年、キーワードなど複数の検索項目で絞り込むことができます。結果はプリントアウトできるので、うちにない雑誌を他大学へ頼む場合も便利です。



CD-ROM 「EconLit」

ついでにいうと、最近ではNBERのWorking Paperもインターネットでダウンロードできます。

<http://nberws.nber.org/papers.html>

PDF形式でダウンロードできるのでプリントアウトすればそっくりそのままのWorking paperです。どのくらい古いものまで利用できるかはわかりませんが少なくとも1995年のものを僕はダウンロードしたことがあります。

## 私が薦めるこの一冊

経営学部助教授 松尾 博史



いまだに繰り返されるタカ派政治家の失言と前言撤回。なぜ彼等は失言し、また失言後は易々と「信念」を曲げて発言を撤回し、しかしなおそれを恬として恥じず、また政治生命を失うこともないのか。それは前言撤回がタテマエに過ぎず、ホンネでは彼の考えが変わっていないことを、本人だけでなく、誰もが知っており、しかもこのタテマエとホンネという二重思考が一般に認知されていることによる。「ホンネ」というのは「まずくなるとすつと穴の中に逃げ込んでしまう奇妙な信念、口に出して言われない本心」のことである。しかしいざという時に固執されず言表されないとしたら、その「信念」は信念の名に値しないだろう。タテマエとホンネという「信念捏造装置」には「真」と「言葉」に対するニヒリズムが露呈しているのであって、このニヒリズムの下では「思っていること

### 日本の無思想

加藤典洋著，平凡社新書003，1999年

分類番号：081/H5/3

配架場所：開架(2階)

をいうこと」に誰も尊敬を払わなくなり、結局言葉は意味を失い、死んでしまう。そこでは思想が育たない。そしてまた言葉によって支えられる公共性の場が成立しえない。私達はそのような思想風土の上に生活しているのである。いったいどうすればこの「タテマエとホンネ」という考え方を打破し、「ホンネ」を本来の信念の形へ復帰させ、言葉への信頼を回復し、公共性を再生させることが出来るのだろうか？

加藤は「タテマエとホンネ」という考え方が意外にも日本古来のものではなく、戦後特有の現象に過ぎないこと、それをもたらしたのが敗戦時の思想的切断と自己欺瞞だったことを追求していく。また他方で、公共性を再構築する可能性を、アーレント、ヘーゲル、マルクス等を手がかりに探ってゆく。

この本は話題になった『敗戦後論』の展開であり、近著『可能性としての戦後以後』の姉妹編である。新書というコンパクトな形で、平易な言葉で書かれているが、批判的思考の息づかいを感じさせる、読み応えのある一冊である。

法学部助教授 宮脇 昇



[公務員試験に使える・備える]

公務員試験の政治学・行政学・国際関係に出題される用語や人名のほぼ全ては、この辞典に見出し語として掲載されている。例えば、98年の地方上級試験の政治学で出題された「ボダンの国家概念」は、この辞典の「ボダン」「国家主権」の各見出しを参照すると解ける。同様に行政学の「ギューリックの行政学」、国際関係の「国連貿易開発会議」(UNCTAD)も一目瞭然である。更に公務員試験に必要な各種小辞典と同じ程度のサイズと価格である。とにかく公務員試験受験者必携の書。

[用語を知る、いい成績をとる、新聞の内容を理解できる]

例えば、頻りに世間で用いられる言葉として「権威主義」という用

### 現代政治学小辞典 [新版]

阿部齊・内田満・高柳先男編，有斐閣，1999年

分類番号：310.3/G6/1(2)

配架場所：開架(1階)・参考図書コーナー

語がある。ところが「権威主義体制」という用語は「権威主義」とは全く別物である。このような概念の違いに横たわる体系を知るためにこの辞典は非常に便利である。またこの辞典に慣れ親しめば政治学関係の科目でいい成績がとれる(だろう)し、新聞の政治面・国際面もよく理解できる。

『imidas』と違う点

『imidas』のような用語集とこの辞書とが異なる最大の点は、前者をいくら読んでも知的好奇心を満足させることがおそらくできないが、後者を用いれば政治学という学問体系に接近できるために知的刺激を受けるという点である。この辞書は、多くの人に愛用された初版に比べて更に内容豊富になった。最後に、この辞典も五十音順に見出し語が並んでいるが、その最後の見出し語は何だろうか。ちなみに、『法律学小辞典』(第3版)や『国際関係法辞典』の最後の見出し語と同じである。

## 新稀観書紹介<その2>

経営学部教授 平田 桂一

### イギリス東インド会社関係稀観書

ロンドンに本社を置いたイギリス東インド会社は、1600年に設立されてから2世紀半以上にわたってインドを中心に活動してきた巨大商業会社である。今風に言えばグローバル企業である。近代企業史においてこの会社ほどイギリス、アジアの経済、政治を揺り動かしてきた企業はない。本国で織物の人気が高まるや、これに目を付けた会社はインドにサンプルを送って職人に織らせるなど、マーケティングに熱心な企業であった。

インドで会社は海上交通の要衝や河岸に拠点を置いたが、やがてそこが都市へ成長していく。それがカルカッタ、マドラス、ボンベイのイギリス植民都市であり、都市づくりにあたってはインドの苛酷な気候や悪疫に配慮がなされていた。

さて本学図書館稀観書室には東インド会社の商業活動などに関する文献が幾冊がある。そのひとつが**W.Milburn, Oriental Commerce, 2 vols., London, 1813.**である。18世紀末から19世紀におけるボンベイ、マドラス、カルカッタなどでの会社の商業活動や地理、度量衡、産業を知るのに役立つ文献である。かつて、私事だが、インドの古書店に問い合わせた随分探した思い出がある。

**H.T.Colebrooke, The Husbandry and Commerce of Bengal, Calcutta, 1795.**や**W.Hodges, Travels in India, London, 1793.**もまた有益な文献である。Colebrooke(1765-1837)はベンガル地方で副収税官の地位にあつたため、農業や商業について相当の知識をもっていたのであろう。現地で出版された本書は、ベンガル地方の農業、商業の手引書といえる。かれは会社の独占権更新に反対で、自由貿易の立場をとっていた。サンスクリット研究でも知られた人物である。都市、海港、商人は商業史研究のカギとなるが、旅行記は見落とせない文献である。画家で王立協会会員だった**W.Hodges(1744-1797)**は1778年から6年間インドに滞在し、帰国後インド旅行記を出版した。マドラス、カルカッタなどの当時の様子を知る手がかりとなる本書は、フランス語にも翻訳された。かつて東インド会社が熱心に買い付けてきたインドの織物は、その種類も実に豊富であるが、そうした関連文献として著名な医師でもあった**J.Forbes Watson(1827-1892)**の**The Textile Manufactures and Costumes of The People of India, 1866, London**がある。



## ——統計データで見る松山大学図書館——

### 図書館利用状況推移表

	入館者数	貸出冊数	閲覧冊数		
			開架	閉架	小計
1995年度	153,562	23,107	56,506	8,393	64,899
1996年度	180,936	27,492	60,997	10,487	71,484
1997年度	188,676	35,736	77,554	12,774	90,328
1998年度	222,733	44,273	85,839	13,416	99,255
1999年度	116,378	23,534	41,352	5,779	47,131

※ただし、1999年度は9月30日現在

### 『相互協力』利用件数推移表

	本学からの申込み件数			他館からの受付け件数			合計
	文献複写	相互貸借	所蔵調査	文献複写	相互貸借	所蔵調査	
1995年度	296 〔36〕	144 〔39〕	86	133 〔3〕	5 〔0〕	10	674
1996年度	380 〔53〕	226 〔59〕	107	99 〔4〕	6 〔0〕	21	839
1997年度	403 〔60〕	277 〔56〕	73	83 〔10〕	7 〔0〕	22	865
1998年度	587 〔52〕	321 〔69〕	50	124 〔15〕	12 〔0〕	20	1,114
1999年度	168 〔22〕	82 〔8〕	23	66 〔3〕	0 〔0〕	4	343

※〔〕内は謝絶の件数 ※ただし、1999年度は9月30日現在

### 【編集後記】

「松山大学図書館報」に、今号から誌名を付けました。題して「熟田津(にきたつ)」。周知のとおり「万葉集」巻一、「額田王歌」に、

熟田津に 船乗りせんむと 月待てば

潮もかないぬ 今は漕ぎ出でな

とあります。「熟田津」は、古代、道後温泉に海路で来浴する場合に上陸した港です。「熟田津」の場所については諸説があり、道後温泉に比較的近いところにあっ

たと考えられます。松山にゆかりのある古い地名「熟田津」を、「図書館報」のタイトルに戴きました。

利用者の皆様に、少しでも図書館を身近に感じていただければとの願いを込めて、前号から、内容を一新しています。「熟田津」の名に恥じないような図書館報にしたいという編集者一同の思いが伝わることを念じつつ。

松山大学図書館報 No.24 1999年11月1日発行

編集・発行 松山大学図書館

〒790-8578 松山市文京町4番地2 TEL(089)925-7111(代)

ホームページアドレス <http://www.matsuyama-u.ac.jp/lib/lib.htm>

E-mail:w-lib@cc.matsuyama-u.ac.jp